

## 「第3回活力ある経済社会を目指す検討小委員会」における主な意見

活力ある経済社会に関する方向性等について

## 論点5) 東アジアとの玄関口としての社会基盤の整備

- ・九州内の産業のポテンシャルを高めていく物流という観点で、物流インフラの整備が必要。
- ・いかに効率的な複合一貫輸送を実現することが重要。
- ・産業のポテンシャルを引き出す物流機能を充実させると考えるならば、ハードとソフトの両方が必要。
- ・北部九州に集約性を高めるというのも1つの方法であるが、複数拠点ということを考える必要もある。コンソリデーション(一元化)の機能を高め、共同プロモーション(販促)の拠点が必要であり、それにはソフト機能やハード整備を伴う。
- ・流通・物流拠点形成やアジアゲートウェイは、地域特性を背景に考えることが重要。南九州では、1次産業と情報産業の連携が必要。
- ・日本とアジアの国土構造の違いを踏まえた物流基盤構築が肝要。相手国の実情(インフラの整備状況や都市構造等)を踏まえ、物流を考える必要がある。
- ・ゲートウェイを絞り込んでいくことよりも、既存ストックの連携をどのように図るのが重要。
- ・アジア諸地域との「多頻度・多経路・多地域」連携。地方都市間連携を強調するとよいのではないか。

## 論点 7 ) 多種多様な人材が集積する産業構造の形成

- ・都市が活性化し、多様性と寛容性が新しい産業を創出する。産業の苗床としての都市、産業が生まれてくる容器としての都市という考え方が必要。
- ・大都市にはない九州の人材資源（地方の工業高校の生徒）を、どのように活かしていくのかという観点も必要。
- ・海外人材の活用も重要だが、国内の若者たちを活用することも必要。
- ・九州の強みを活かして、アジアとともに繁栄していく地域を作り上げていくためには、ソフトパワーを活かすことが重要。
- ・人材の流出を防ぐには、産業基盤の充実だけではなく生活基盤を充実させることも重要であり、暮らしやすく魅力ある地域づくりを、公的に応援することが必要。
- ・アジアの人々が魅力的と感じるような地域をつくるためには、九州の人たち自らが満足できる地域にしていくことが重要。
- ・九州の実業高校生パワーは貴重。起業の芽を育成する工夫が必要。
- ・日本人に対する（外国語を含む）文化理解の教育や高専をアジア連携及びものづくり基盤に、どのように活用していくのかが重要。
- ・高度な人材養成だけではなく、現場レベルの人も教育できるという、人材育成の拠点地域であることを強調してもよいのではないか。
- ・大学を目指すだけではなく、芸術や技術、専門性を持った学校などの制度や方向性等が重要。
- ・海外の人材を呼び込み育成し、また、教育した人材を送り出すという取り組みを全国に先駆けてできればよいのではないか。
- ・ものづくりの現場を担う人材が、キャリアパスをイメージできるようにすることが重要。九州にはレベルの高い人もいれば即戦力の若い人材もいる、そして彼らのキャリアパスが可能であるという仕組みがあればよいのではないか。
- ・地域の雇用を支える中小企業と地元の学生を受け入れる中小企業の人材育成が重要。中小企業という視点と絡ませて考える必要がある。
- ・九州におけるアジアビジネスの戦略・方向性を踏まえて、どのような人材を育成するのか（環境・バイオ・情報等）が重要。

以上